

令和5年度 第2回 尼崎市生涯学習審議会 会議録要旨

日時	令和5年12月1日（金）午前9時から午前10時まで
場所	Web
出席委員	渥美委員、庄本委員、大槻委員、田井委員、田中委員、中西委員、松岡委員、松村委員

■議事内容

1 開会にあたって

傍聴者の確認

傍聴2名

2 委員紹介

3 会長及び会長職務代理者の選任

▲生涯、学習！推進課長

尼崎生涯学習審議会条例第4条第1項では、会長は「委員の互選により定める」ということになっております。選任にあたり事務局案を提示させていただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

《異議なし》

▲生涯、学習！推進課長

特に異議がないようなので事務局案をご説明申し上げたいと思います。事務局案といたしましては、これまでからの審議の継続性を勘案するとともに、これまで長きに渡り本市の生涯学習推進にご尽力いただいております渥美委員に会長をお願いしたいと考えておりますがいかがでしょうか。

《異議なし》

▲生涯、学習！推進課長

ご異議ないようですので、全会一致で渥美委員に会長をお願いすることを決定したいと思います。ここからの進行は渥美会長をお願いしたいと思います。渥美会長よろしく願います。

○会長

それではみなさんのご指名を受けまして私が会長職として進めさせていただきたいと思っております。ぜひ皆様からの忌憚のないご意見をいただき、進められればと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

会長は決まりましたが、続いて会長職務代理者の指名をさせていただきたいと思っております。尼崎生涯学習審議会条例第4条第3項では「会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、あらかじめ会長が指名する委員がその職務を代理する」ということになっておりますので、会長職務代理者として久委員を指名させていただきたいと思っております。今回はご欠席されていますので、会議終了後に事務局から就任について確認を行っていただきます。

それでは、次第3「尼崎市生涯学習審議会の目的、及び令和5年度の取組状況」に移ります。事務局よりご説明させていただきたいと思っております。

4 尼崎市生涯学習審議会の目的、及び令和5年度の取組状況について

<事務局説明>

○会長

報告事項ですので議論はいたしません、確認したい点等があればご発言してください。

○委員

アンケートだと因果関係が分からず、地域活動を始めてから市職員が手伝ったことにより市職員を身近に感じるようになったということもあるかもしれません。いずれにしても市職員が身近なことが非常に重要であることはよく分かりますので、市職員の取組などのストーリーを確認してみると良いと感じました。

▲生涯、学習！推進課長

それについては、地域別シートでエピソード評価を実施しているので、そこで市職員の働きかけによる地域の変化や、地域の方の動きで市職員が動きやすくなった例などを見える形でお示ししていきたいと思っております。

○委員

地域課が身近になった要因の1つに各地域課が行っているプラットフォームが大きく貢献していると思っております。私も地域活動サポーターとしてプラットフォームの運営のお手伝いをさせていただいていますが、すごくフラットな関係ができていて、「こんなことが気になる」とか「こういうことをしてみたい」と参加される方がすごく増えておられ、それに対して地域課も実現するためにいろいろなアイデアや意見を出されたりしているのが実ってきているのではないかと思います。

○委員

私も同意見で、各地区のプラットフォームがすごく有効に働いていると思います。それともう1つは、地域課職員が地域の活動の会議にも参加されるようになって、それも身近に感じられる1つの要因と思っています。もちろん生涯、学習！推進課職員もいろんな会議に出ている、出向くということも大事なこととおもっています。

○委員

尼崎市の地域活動や学びというのがうまくつながってきている感じがしましたし、説得力という点で言えばエピソードのところから積み重ねていただければと思いました。先ほどのプラットフォームがうまく機能しているという中に、市職員が出向くことが大切だという話がありました。そうだろうと思う一方で、例えば地域の会議などは夜間や休日の開催が多く、そういうところに職員が出向くときの労務体制も大切です。ボランティアのような形になってしまうこともありますが、安定的にしていこうと思った時に何らかのサポートが必要ですが、それについての工夫はされていますか。

▲生涯、学習！推進課長

振替休日や代休といった制度を活用しています。たしかにボランティアか仕事なのかという整理は難しく感じていて、私は管理職として「職員自身がまず楽しむ」ことを前提にし、苦しんでまでいくことはないと思います。そこは、コミュニケーションを取りながらしてはいるつもりです。

○委員

自発的という意味でのボランティアリズムが消えないようなサポートの仕方が行政の中でないといけないので、強制的、義務的になり、これが優秀な職員だという形でクローズアップすると、かつてある社会教育職員をスーパー社会教育職員と祀り上げてしまい、結果的にそこまではできないという職員との間に溝ができてしまった。そうならないようにしていくような関わり方や体制が必要です。もしかすると、休暇にかかる事務的な手続きも柔軟な対応を取り入れることも必要かもしれません。そういった環境がどう作られているかによって、職員の立ち振る舞いが変わると思います。行政で取り入れるためには、何らかの内規や申し合わせ事項みたいになってくるとは思いますので、ご検討いただければと思います。

○委員

私自身も地域活動をするので地域課に協力いただいています。例えば、公園を借りる時の書類の作成を手伝ってもらったこともあり、10年ぐらい前と比べると、すごくスムーズにいろんな活動ができるようになったという体感があります。全員が地域に出向かなくても良いと思っています、書類の手続きがすごく親切な職員もいますし、イベントがあるととりあえず顔だけ出してくれる職員もいます。本当はイベントなどを地域課と一緒に作っていければ良いが、様々な職員がいて、私はすごく評価が高いというか、ありがたいと思っ

ています。いつも活動するのでここでお礼を言わせていただきます。

○委員

私も災害救援のNPO活動をしていますが、まさにおっしゃるようなところで信頼感、感謝、つながりといった様々なものが生まれているように思います。しかし、他の委員のご指摘の通りで、休暇等の労務管理はしっかりしていただかないと燃え尽きてしまう可能性もあります。

○委員

地域課の関わっていた職員が人事異動され、それからは別の職員と協力して活動してきましたが、最近は新旧の職員と一緒にやって行くことも増えてきて、イベント開催や学校などで何かを取り組むときにはとても助かっています。また、子供たちも職員の顔を覚えてくれているので、身近になっていると思います。

○会長

この分析に対して様々なご意見いただきましたが、まさに元となったのは生涯学習活動が地域活動につながっていると感じる市民の割合が目標値を超えているが、その要因を分析すると、市民の方が市職員を身近に感じていることが関係しているというものです。それが原因なのか結果かはわかりませんが。また、実際に委員も地域課職員を身近に感じることがあり、身近に感じるパターンは様々であり、その職員の労務管理もしっかりしながら、良いことなので続けていきたいと思いますという話でした。

次は次第4の「新冊子『みんなの尼崎大学・大学案内（コンセプト案）』を用いた、本市の生涯、学習！の理念の共有について」に移ります。意見交換の件なので、この新冊子を用いて、生涯、学習！の理念を共有していこうというわけですが、このことについて事務局からご説明いただいて皆様のご意見をいただきたいと思います。よろしく願います。

5 新冊子『みんなの尼崎大学・大学案内（コンセプト案）』を用いた、本市の生涯、学習！の理念の共有について

<事務局資料説明>

○会長

事務局の説明に対して、皆様と意見交換をしたいと思いますので、どなたからでも結構ですので、ご発言をお願いします。

○委員

ラフ案には各地区のプラットフォームが例示されていますが、北部のものがメインで載っているのは意図的な形なのか教えてください。私が南部の方で活動していますので、北

部のプラットフォームだけが載っているのは、どうしても聞かせていただきたい。

もう1点は、みんなの尼崎大学を知るためのキーワードとして、大学ごっこということがあります。学生証などの大学をイメージするものがありますが、自分が大学生の時に大学とは単位を取っていくというイメージがあったので、単位制を導入してはどうでしょうか。管理や展開が難しいかもしれないが、遊びの工夫として今までの構想であったか教えてください。

▲生涯、学習！推進課長

まず1つ目のラフ案のプラットフォームが北部に偏っている件については、意図的なものでございません。南部の方にも、地域課主催のもの以外でプラットフォームやふらっと立ち寄れるものがあれば掲載をしていきたいと思えます。

2つ目の単位制の導入についてです。いくつ単位をとったから卒業というのは考えていませんが、モチベーションを高めるための1つの方法になりますので、検討しても良いかと思えます。ただ、既にオープンキャンパスなどに参加するとあま咲きコインを付与しているので、それを少し活用、流用しても良いと感じたところです。

○委員

これは冊子の内容というよりは気になっていることですが、尼崎大学の立上げ時に商学部がすごく頑張っていたと思えます。

商学部の現在が個人的に気になります。あとマップに市内の全てのプラットフォームや学び場を落とし込むのは大変ですが、なるべく拾っていただけると活動している方達にとっては励みになると思えます。

▲生涯、学習！推進課長

パンフレットは紙のため、どうしても古くなりますので、そういった部分に関してはホームページなどの更新できる媒体を使いながらやっていこうと思えます。また、マップに掲載するプラットフォームや学び場は、できる限り多く拾っていきたいと思っています。

○委員

ホームページなどの媒体も使うという話がありました。パンフレットは作っていくプロセスはすごくワクワクして、いろんなものができて良いのですが、一旦でき上がるとなかなか活用が出来なくなることがあります。なので、SNSなどにうまく乗り入れることができるような形にして、様々な事例などは、むしろSNSを使うとワンクリックで様々な形で紹介ができたりするので、うまく利用していく、様々な媒体が連動していくと良いと思えます。

私たちも様々なプロジェクトをやっていて、コロナ前まではパンフレット・チラシ派でしたが、コロナ禍を経て、SNS媒体を使うようになると海外からも連絡が来るようになりました。翻訳ソフトも良くなってきていて、これまで障害のある人たちに向けてホームページは、ユニバーサルデザインとして全部が繋がっているものが良いとされていた。そうす

ると、翻訳しやすく、ブラジルの方から「こんなプロジェクトをブラジルでもやってみたい」と連絡きました。

尼崎大学の取組はすごく面白いことをやっています。先進的なキーワードが色々入っています。キーワードが入っているとは、考え方が入っているということです。そういったものを踏まえて、自信を持って発信して行ってほしいと思います。地域の人にもパンフレット使って理解してもらい、地域の外からも応援してもらえるような媒体になっていくと良いなと思います。パンフレットも多文化化の時代で、日本語のみならず韓国語や中国語と様々な形でパンフレットを作ること大切。これは予算があればできますが、そこまで予算を取れているかわかりません。こういった多文化化に対応するような発展も見越して、パンフレットの整備をしていくのが大事かと思います。

▲生涯、学習！推進課長

まさに多文化化というところで多国語の視点は大切ですし、障害をお持ちの方も含めて、特に紙媒体にすると色々考えていく必要があると思います。しかし、どうしても予算との兼ね合いもあって、色々考え続けたいといけないとは意識はしているところです。

あと SNS などを使ってという部分で、我々は情報発信というところでは、LINE やアマニスム（定住転入促進サイト）など様々な媒体を持っています。今回はアマニスムの作成に携わった業者に、尼崎大学のパンフレットを作っていただくとしているところなので、連動性という部分では、尼崎大学と定住転入とを少し意識しながら、あるいは新たな取り組みというのをパンフレットにも SNS などにも反映できるように意識して進めていきたいと思っています。

○委員

2点ありまして、1点目は、様々な活動されているプラットフォームや学び場などのマップについて、QRコードを読み込むと、自分の住む地域などの近くが一目で分かるみたいなマップにできれば良いと思います。プラットフォームや学び場の増減にも対応しやすいと思います。やはり近所で何があるのかというのは、意外に分からなかったりするもので、そのリンクが貼ってあったり、連絡先があれば地域活性化が進むと思います。そうすれば、紙のパンフレットに載ってない学び場がこんなにたくさんあるのかと安心するとも思います。

2点目は、「学び」から「!」、「!」からその先とは何だろうと考えていて、それは何か知らないことを知って活動につながったこと、何かを学んだから私はこうなったといったことなどのエピソードをパンフレットのどこかに入っていると良いと思いました。

あと点字や漢字にルビを打ってもらうと知的障害の方も読めるので、難しいかもしれませんが、可能だったら対応をお願いします。

▲生涯、学習！推進課長

QRコードの掲載や漢字のルビについては考えていきたいと思っています。

知ることで変わったというエピソードは、先進的な事例として2名を紹介する予定で、

そこから読み取ってもらえるような作りこみはできるかと思います。「学び」から「!」、
「!」から「つながり」に発展し、それが「まちを支える」というのが、この「生涯、学
習!」のコンセプトであり、一番の根源と思っています。ただ、これを押し付けるとい
うのは良くないので、本市ではこういう意識で常に動いているということ、見える形とし
て事例などで示していければと思います。

○委員

知ることから学び、学ぶことあるいは出会うことから「!」が生まれるというこのセン
スはすごく良いと思います。「!」ということは大切なことだと思います。ただ「!」か
ら、このパンフレットだとすぐ「つながる」「行動する」という非常に積極的なものにすぐ
行くことに見えます。アクティブシティズンは確かにそうなのかもしれませんが。本当
は「!」からまた「学び」が生まれてきたり、「!」から「好奇心」が湧いてきたりとい
うことがあります。そういったワンクッションがいるのではないのでしょうか。「!」から「好
奇心」へ、「好奇心」から「何か」へというのは、行動とか何か変化にすぐ体を押されてい
くのではなくて、まずはまだまだ自分の主体的な部分がありますといったところを残して
おくと、「生涯」というところに繋がってくると思います。

「学び」から「!」、「知る」ことから「!」、そしてまた「学ぶ」、それを繰り返してい
く中で、だんだん人とつながる、またはすぐに行動に起こす場合もあるし、ある人は次の
学びの場に移ることもあり、まさに多方向的なプラットフォームの場になるというイメー
ジが湧くと思います。

○委員

私は災害救援のNPO活動で被災された集落で分校というのをやってきました。「本校は心
の中にある」と勝手なことと言って、小さな村ですがやってきたところ、そこでは勝手に
色々なことが起こり出しました。受講生たち（村人）が勝手に軽音楽部を作り、ギターを
弾き、学生たちがいるので卒業式をやりだし、卒業証書くれるようになり、日直というも
のを作り、給食も作りました。結果的にはできませんでしたが、遠足で温泉に行くとい
うのも計画しました。

何をお伝えしたいかという、ある程度こうやってパンフレット整えていくと、今度は
何かもっとやりたいという人たちが集まってきて、サークルを作る等と様々なことが生ま
れる。様々なものがうごめいているのが大学だと思いますので、そういうのを丁寧に拾っ
ていくと良いかと思っています。

比喩というところを、すごくうまく使っている例が私の身近にもあったので、この尼崎
大学もうまい比喩としていけば、例えば大学なら、生協がある、学食あるなどと市民が言
い出すと面白いと思って聞いていました。

○会長

事務局には本日のご意見を元に、より多くの方に生涯、学習!の理念が伝わるように、
このパンフレットを作っていただけるということを聞いていますので、どうぞよろしくお

願います。

では、次は次第5の「生涯学習プラザ指定管理者の選定状況について」に移ります。事務局より報告をお願いします。

5 生涯学習プラザ指定管理者の選定状況について（報告）

<事務局報告>

○会長

それでは令和5年度第2回尼崎市生涯学習審議会を終わらせていただきます。ありがとうございました。